

独立性と文化的多様性のある音楽エコシステムの活性化

公正な市場と持続可能なインディペンデント・セクターを通じた音楽経済を強化する重要性

文化的多様性は、回復力があり、革新的で、グローバルな競争力を持つ音楽エコシステムを推進する原動力です。独自性のあるクリエイティブ・コンテンツの輸出を促進すると同時に、コミュニティを強化し、地域経済を支える役割を担っています。「独立性(インディペンデンス)」は文化的多様性と同義であります。アーティスト・ファーストを掲げ、必要に応じてクリエイティブなリスクを厭わないインディペンデントな音楽企業こそが、多様性が繁栄するための基盤(インフラ)となります。

現在、独立性、ひいては文化的多様性は、深刻な構造的課題に直面しています。市場の集中、資金やデータの不均衡、意図的な「インディペンデント」という肩書きの流用、さらには生成AIの急激な台頭やストリーミング操作といった要因が、健全なエコシステムを維持するための厳しい試練となっています。

所有権、インフラ、投資、そして監督体制の問題は極めて重要です。これは経済的、社会的、文化的な急務であると同時に、主権と民主主義に関わる問題でもあります。つまり、解決すべき課題であると同時に、大きな機会(チャンス)でもあるのです。

地域の機関、各国政府、そして音楽セクター全体は、インディペンデント・セクターを「独自の経済エンジン」、「文化の守護者」、そして「ソフトパワーの主要な柱」として認識しなければなりません。多様な文化の未来を確保し、それがもたらす機会を最大限に活用するために、私たちは以下の事項を推奨します。

1. 資金調達の実施の多様化:
文化的多様性への効果的な投資には、公的、民間、あるいは官民連携のイニシアチブなど、企業やアーティストが活動を拡大し、成長するための多様な資金調達ルートが必要です。
2. 独立したインフラと市場(デジタルおよびその他)への公正なアクセスの保証:
インディペンデント企業が新しいアーティストへ安定して投資を続けるためには、機会や収益が損なわれることなく、自由かつ公正に市場へアクセスできる環境が不可欠です。
3. 自主的な団体交渉権の強化:
ライセンス契約において団体交渉を選択する権利は保護されるべきです。これは、小規模および独立系の権利者がグローバル市場で自らの作品を収益化するための最も効果的な手段であり続けているからです。
4. デジタル市場の枠組みへの多様性の組み込み:
デジタルサービス、プラットフォームのガバナンス、AIの規制枠組み、さらには競争法による監督ツールにおいて、多様性の維持が明確に組み込まれる必要があります。
5. 多様性を測定・追跡可能な優先事項とする:
「地域音楽観測所(Regional Music Observatories)」などを通じて実績や所有権に関するデータを収集し、産業戦略の根拠となる基盤として機能させるべきです。

6. 独立性を守るための業界内連携と基準の支援：
最適なエコシステムを構築し、「インディペンデント」などの用語定義を合意するといった業界主導の連携アクションは、過度な規制に頼ることなく、透明性と信頼を高めることにつながります。

要約：

文化的に多様なエコシステムは、極めて価値の高い資産です。その核となるのは、強力なインディペンデント音楽企業とインフラであり、それを支える多額の投資、適切な規制監視、そしてセクター内の野心的な協力体制が必要です。グローバルな政治情勢が激変する中、私たちは規制当局と業界双方が緊急に再考を迫られている、歴史的な岐路に立っています。

2026年2月

ダン・ファウラー (Dan Fowler)

レポート全文はこちら(英語)：

<https://impalamusic.org/wp-content/uploads/2026/02/Powering-an-Independent-and-Culturally-Diverse-European-Music-Ecosystem-040226.pdf>

Worldwide Independent Network Ltd
www.winformusic.org